



## 技術革新、つかいこなすも人のわざ 眠らせるは惜しい地域力



●弓愛会メンバーによる弓削商船高専操船シミュレーター一見学会。操舵室から見えるのは実景そのもの。元船長菊本洋迪氏(中央奥)の指揮で嵐の来島海峡を無事通過。

### ■人は石垣

人は石垣、人は城、と言ったのは戦国最強の武将と言われた武田信玄だとされます。まことに人間社会が人で回っているからには、人を抜きには地域の活性化も考えられません。

我が国の現在は、戦後初めて大変な危機を迎えていて、国の未来さえ危ぶまれるなか、この町のような弱小自治体は、そのことに鈍感であっては未来はありません。一方で技術革新は日々新たな。かつての夢物語が現実化もしています。日々新たな現況と、過去連続と続いてきた現況がどうつながってゆくのか、いやつなげてゆくか、でしょう。

### ■技術革新の現場

去る9月7日、弓削商船高専に導入されている新しい操船シミュレーターを見学に行きました。「操船シミュレーター」をあえて和語で言えば、全状況再現型模擬船舶操船訓練装置ともなるでしょうか。高専のインターネット・ホームページでは、「操船シミュレーターとは、船

のブリッジを模擬した部屋の廻りに、大型の円筒スクリーンを設置し、これに映像を投影して船の操縦訓練を行う装置。室内にいなが海上で船に乗っている感覚になりませう。船酔いに関する意・一と紹介されています。その装置の中で体験は、まさに実際に船の操舵室でする体験に行き交う船、前方の状況など実際にリアル。なんと見学中に、船長の指示にしたがい舵取りをしていた学生が船酔いをしたのはびっくりしました。

## 地域貢献のありかた考

### ■弓愛会

この見学会へ参加ができたのは、旧弓削町時代からあった「友愛会(ゆうあいかい)」という元船員の親睦団体が、今年解散の危機を乗り越え、新たな活動を起すにあたり高専の最新設備を見学に行こうという企画に便乗してもらったからです。

新生友愛会の会長は、佐島地区の国延隆彦氏。事務方には太田地区の松下邦幸氏が就かれています。

会の目的は会則によると「上島町在住の会員相互の親睦、扶助を図り、また町の発展に寄与する」であり、事業としては「会員相互の連絡、親睦、扶助、同一目的を有する他団体との連絡提携。その他目的達成に必要な事項」となっており、組織構成は「上島町内外に在住する船員及び過去船員であった者で会の目的に賛同する会員」「船舶・海洋に興味を持ち自然及び環境保全に協力する者で会の目的に賛同する会員」「会員の配偶者並びに子息等の入会を妨げない」となっています。

日本海員組合を創った生名島出身の濱田太郎郎に關しては、本紙「國太郎探訪」というコラムで色々な切り口で紹介させていたのですが、過日、生名島で毎月開催されている「濱田國太郎を顕彰する会」の月例会に友愛会の事務方をお招きし、友愛会の目指すものにつき話を伺いました。そのときとても印象的な言葉があり、まさにいま我々が取り組まねばならぬことが端的に言い表されてきました。以下引用します。

### ■弓愛会のめざすもの

「この地、旧弓削町(弓削・佐島)・現上島町一帯は、明治百年の特殊な技術(船員・造船業)の技能者集団の町です。元々弓愛会の設立の意義は会則の第2条(目的)本会は上島町在住の

会員相互の親睦、扶助を図り、また町の発展に寄与する。となっており、ご存知のように船員の技術は、単に船舶の運転のみならず、管理や修繕・乗船期間中は寝食を共にするわけですから、司厨部に至っては調理・給食からホテル並みのサービスが要求されていたわけです。今となっては極めてアナログ的な技術ですが、上島町の教育機関や行政に対して何らかの役割に立ってることが出来るのではないかと考えております。つまり上島町は、そういう船員経験者の宝庫ではないでしょうか。あと10年このまま利用しないで放置しておけば、自然に消滅する技術であると思います。そこで、出来れば弓愛会がその間のインターフェイスとなって良いのではと思っっている次第です。」

「どんな仕組みも最後は「人」ここであらうインターフェイス

### 青木書代子



脳天気な私も九月は疲れた。まず東京五輪競技場とエンブレムの騒動。私は招待時の桜のモチーフが使われるのだと思つた。今は使用不能となつたエンブレムお披露目セレモニーにかかった経費が7,000万円也。まじつすか!

そして、九月一日の新聞だ。国民ひとり当たり借金が820万円。ワオッ。なのに、防衛省予算要求の前身。オスプレイ12機、戦闘機6機、無人警戒機1機、水陸両用車11輛。しめて3,035億円。先の7,000万円がたいした金額に思えん。

九日の大雨による大水害。その水も引かぬうちにチリ沖地震による津波の心配。知人の娘さんが青年海外協力隊で五月にチリに行つたばかり。「無事?」とも聞けず邦人無事の報道に胸をなでおろす。



で、とうとう安保健案可決。何度聞いても腑に落ちる答弁をしない大臣の、スーツの襟元の白い汚ればかりが目についた。で、とつても書きつらいけど、カーブの負けつぶり。せめてガ

とは、物事と物事をつなぐ接着剤を想像すればわかり易いでしょう。接着剤にも様々な種類、用途に応じたものがあるように、様々な経験を積んだ人々の能力が、惜しみなく地域社会に活用されることで、人が石垣や城、掘となると思うのです。

やよみ亭 映画研究会・無料  
 10月15日(木)夜7時から  
 どなたでも観覧にどうぞ  
**「セコンド」**  
 ●出演: 往年のハリウッドスター、サロ、ほか、フク、ハドソン、ジョ、ランゲンハイマー、1968年アメリカ映画  
 ●特異なカメラワークで非日常的で不条理の世界を表現した第39回アカデミー賞作品。

ンガン勝つてくれたら、九月も少しは明るいのに・・・そんな時、TV画面に「明日から学校です。先生が、笑顔と元気な体だけ持って来てくださいますと言いました」「大人になつたら自衛隊に入つて、人の為になりたいです」と。りゅうのすけ君と名乗る子は大水害の折、ベランダから自衛隊のヘリで救助された。何度も放映された見事なホバリング。しつかりと抱え、ヘリの中に入つた時は思わず拍手。胸が熱くなった。どうか自衛隊のみならず、武器輸送にヘリを飛ばす日がきませんように。りゅうのすけ君の夢が叶いますように。そして小さな声で、カーブ頑張れ。



### 海員組合を創った男・探訪

濱田国太郎を顕彰する会 (参加自由)  
(毎月 25 日 13 時～。生名中央公民館 2F 青年学級室  
で開催しています。どうぞ覗きにおいでください)

(17)

#### 【濱田国太郎の出家】 ③

吉井良久 (雷声寺住職)

僧侶のことを、一名沙門ともいいますが、社会から一步退いて自ら修行し忘己利他を實踐する求道者(菩薩)の姿は、濱田国太郎という人間の悲願とその行動に照らし合わせると、沙門という名は誠に相応しいものをもっています。加えて、政治力と突破力の塊のような蘭志国太郎さんのイメージは豪僧でもあります。

体は小さいが気力は人一倍。「燃えさかる炎」というのは国太郎の人間性にふさわしい形容のことばです。別にどこかの伝統仏教宗派などにも所属しなくとも、「一沙門の濱田国太郎開山寺院」で存在する道が無かったわけでもない、今になれば思われます。

国太郎さんが坊さんになって、また苦勞を重ねて集めた浄財による寺院建立の一番の目的は、なんとしても先に戦死した船員仲間の供養法要の実施にありました。以下のような「国太郎讃迎文」があります。

『さて、国太郎には生活改善活動のほかにもうひとつ取り組みを進めなければならぬ課題があった。戦争で補償なく顧みられることなく亡くなっていった船員仲間たちへの鎮魂法要である。この思いを實現させるため、国太郎は昭和に入ってから政治の舞台から降り、出家して僧名を雷声と名乗り僧侶活動を始めるのである。持ち前の行動力を発揮して浄財集めに奔走、一途に鎮魂のための寺院建立をめざし苦勞を乗り越え取り組みを進めていった。そして遂に昭和 10 年 5 月 10 日、讃岐琴平からはるばるかの「金屋羅大権現」をお迎えし、そしてかねてよりの悲願であった戦死船員さらには殉死船員の鎮魂と供養のための寺院建立を實現成就したのである。』

(注：昭和 10 年は国太郎組合長を辞し、僧侶活動専念開始の年。金屋羅大権現は既に前年の昭和 9 年に請来されている。)

### 議員活動録

(32) 上島町議会議員 平山和昭

■議決の意味の再認識を  
あたりまえのことですが普通政策を提案するのは首長(町長)が執行部を代表して行い、それを、町民の代表である議員がチェックし、問題がなければ政策として実行されるわけです。議員には議案をチェックする義務があるので色々質問をします。

問題はその後です。理事者から提出された議案に、賛否を決めるのは多数決原理にも

わが町の議会基本条例の制定に先立ち、議会での議案審議の方法の確立が急がれます。旧町村時代は本会議中心主義で、合併後もそれが踏襲されてきました。定例にして臨時にし、議員は本会議で理事者(町執行部)に説明をもとめ(質疑)、その後、討論(議案に関する個々の議員の賛否表明)を経て、採決に入ります。

討論はその議案に関し、賛否の論を張るわけですが、矛先は理事者に向いています。もちろん全く討論のない場合もしばしばです。

### 市町村議会が望ましい動きをするには

## 議会の質的变化を期す

とづく議員です。つまり議決の段階で議案は理事者の手を離れ、その命運は議員の判断に委ねられます。よって議員は、その賛否に関し理事者同様町民に對し説明する責任があるということなのです。

議員同士の議論の場に議員の同席は必要ないからです。その場が、いわゆる各種委員会です。したがって議案の委員会付託を増やし、その場でしっかり議論を深めたいという最終的に町民の代表者として態度を決めるのが在り方です。

以上のことをふまえ、現在従来の審査の在り方を、この条例に沿える形に変化させつつあることを御理解いただきたいと思います。

あー、もう十月！ 光陰矢のごとし！ 九月は議会月でしたね。今月は知人が陳情書を出したという事でお誘いを受け、今治市議会の委員会へ傍聴に行きました。議場と違い、会議室という狭い空間で傍聴する委員会は緊張感が違います。思わず筆手しで発言したくなる程の距離感です。しかし今の委員会は予定調和で粛々と進められているようで、メンバーによる活発な議論の場ではありませんでした。このようにして、何事もなかつたかのように静かに死んでいくんだらうか？と、如何ともしがたい思いがしました。

10月10日(土)~11月23日(月・祝)  
休 日 日曜日(10月12日(月・祝)11月23日(月・祝)は開演)  
開演時間 9時~17時 \*入場は開演の30分前まで  
尾道市立美術館  
1722-0022 尾道市立美術館(0894) 54-0840-2201

### 阿部純子 絵画展

### 平和の祈り

因島市民会館  
10月17日(土)~18日(日)

また、念願の上島町議会へもやと傍聴に行くことができました。最終日だったため、予めの段取りが進められていきましたが、やはり、自治体によって議会の雰囲気が違うので、大変参考になりました。次回は一般質問を傍聴したいです。さて話を呼んで先週末は、ゲスト講師を呼んでの女子カメラツアーにスタッフとして同行しました。北は栃木、南は大分と全国から写真好きの女性に参加。初めてしまなみ地域にいられた方もいて、女性ならではの視点新鮮で、地元の魅力を再発見できました。民間の感覚を大事に、これからも活動を続けていきたいと思えます。

### 地元の再発見

黒川みき (大三島)

